1-17(金) PM6:30

日本の平利を

沖縄国際大学大学院教授 ジャーナリスト、政治学者、経済学者



まえどまり ひろもり さん1960年沖縄県宮古島市生まれ

明治大学大学院政治経済学研究科 博士前期課程修了(経済学修士)

1984 年琉球新報社入社 文化部、社会部、東京報道部、政経部などを経て 1998 年編集委員 その後、編集局次長、経営企画局次長、論説副委員長、紙面審査委員長、論説委員長を歴任 2011年3月琉球新報社退社、同年4月から沖縄国際大学大学院教授

2004 年、外務省機密文書のスクープと 日米地位協定改定! Ⅰキャンペーン記事「検証 地位協定~不平等の源流」で第4回 Ⅰ 石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞、日本ジャーナリス I ト会議大賞、新聞労連ジャーナリズム大賞特別賞3賞を受賞

著書:『もっと知りたい 本当の沖縄』(岩波ブックレット) 『沖縄と米軍基地』(角川新書)『本当は憲法より大切な「日・ 米地位協定入門」』(創元社)他多数

参加協力費1000円

エルおおさか南ホー (大阪府立労働センター 南館5階) 大阪市中央区北浜東3-14

地下鉄谷町線・京阪電鉄「天満橋」から西へ300m

[基調報告]

誇りをもって働ける 損保産業の再生を

大阪損保革新懇世話人(東京海上日動勤務) さん



大阪損保革新懇

大阪市中央区瓦町1-7-1 エスペランサ瓦町ビル4階 電話:06-6232-1095

e-mail: ossnpksk@gmail.com HomePage: http://osakasompo.perma.jp/

沖縄は日本におけるカナリア

衆院予算委中央公聴会 前泊沖縄国際大学教授の公述(2023年2月19日しんぶん赤旗)

沖縄戦経験者たちがいなくなって、沖縄での戦争がまた始まりそうな雰囲気です。(アメリカの戦争に)巻き込まれる危険な水域に日本が入っていくような印象を持っています。

予算にがくぜん

国会審議なしの事実上の閣議決定で軍拡や敵基地攻撃能力が決められている。防衛省の予算書を見るとがくぜんとするんですが、もう戦争が始まったのかというぐらい一気に1兆円余りの予算が増額されています。

国是であったはずの専守防衛はいつの間に敵基地攻撃能力に転換されてしまったのか。ここに踏み出してしまうと軍事力はいくらあっても足りない状況になってくると思います。

今ウクライナで東側のドンバスが攻撃を受けていますが、首都のキーウでは普通の生活が続いているという。 こういうことが出てくると、沖縄は戦場になって東京では普通の生活が続くというイメージすら浮かんでくる。

馬毛島から始まって奄美大島、沖縄本島、宮古、石垣、与那国と次々に自衛隊のミサイル基地が建設されています。このミサイル基地は一体誰から誰を守るためのものなのか。

アメリカの戦争に日本が巻き込まれないようにという話もありましたが、まずは国を守るより国民を守る安全保障の議論をしていただきたい。そのことがまず基本ではないかと思っています。

国民の権利侵害

日本においては有事と平時における区分けがないままに地位協定が運用されています。このために戦時体制につくられた地位協定が国民の権利を侵害し、国民の安全すらも脅かすような状況が続いている。

例えば訓練の中で、小学校の上をヘリコプターが飛んで窓枠を落下させる。こういうことが起きないように 「この上を飛ばないでくれ」と政府が申し入れたにもかかわらず、飛び続けるんです。

日本ができることはその上を飛ばさないことではなく、シェルターを作って守ると。こういう状況が沖縄で起こっていることです。しかも普天間基地はいつ返るかのめども立たない。代替施設は一体いくらお金がかかるのか分からないという状況の中で造られ続けている。

沖縄は日本におけるカナリアではないかと思っています。沖縄が犠牲になるときは日本全体が犠牲になるとき だと思っています。

沖縄という地域は日本という国が抱えている問題が全て凝縮された地域です。沖縄の危機を共有することによって日本の危機に対処することができると思っています。

当事者として注目を

傍観者ではなく当事者としてこの問題に注目していただければと思います。

大阪損保革新懇の三つの座標軸

- ① 損保は「平和産業」である
- ② 損保は国民生活に密着した「セーフティネット産業」である
- ③ 損保は「生きがい・働きがい産業」である

大阪損保革新懇

大阪市中央区瓦町1-7-1 エスペランサ瓦町ビル4階 電話:06-6232-1095

e-mail: ossnpksk@gmail.com HomePage: http://osakasompo.perma.jp/